平成26年度文学研究科共同研究経費申請書

下記の通り文学研究科共同研究経費を申請します。

研究代表者 (申請者)氏名	山田 雄三	専門分野・ コース名	英米文学	職名	准教授
研究課題名	逐語訳・意識・翻案—日英米モダニズム文学を翻訳する際の理論と実践				
研究目的					
〔研究の目的、その意義と予想される成果、新規科研費獲得に向けた準備状況などを記入してください。昨年度科研を申請して不採択になった場合は、研究継続・再申請準備状況も記入してください。〕					
【研究目的】					
<p>本共同研究は、おもに20世紀以降にアヴァンギャルド詩や短歌、俳句の相互参照が顕著となる日英米のモダニズム詩を対象として、英語と日本語とのあいだの文法や音韻を含む言語距離を測定したうえで、「逐語訳」「意識」「翻案」を実験的に試みる翻訳実践を共同で行うことをその目的としている。また、この実践をとおして、オリジナルと翻訳との距離を縮めるためには、どのような共通項を作るべきか、その条件を抽出することを目指す。さらに、日本語を意識した英語詩、英語を意識した日本語詩（わたしたちはこれをバイリンガル詩と名づける）を分析することで、グローバル時代の新詩体の特徴と可能性を考察したい。</p> <p>そこで本共同研究では対象を「モダニズム詩」および「バイリンガル詩」とする。村上春樹の小説は各国語に翻訳され、世界中で大きな市場を形成しているのと対照的に、日本の実験的な「モダニズム詩」は翻訳される機会がなく、ほとんど知られていないのが実情である。同じことは21世紀の英米の「モダニズム詩」についても言える。また詩人 Nanao Sakaki に代表される「バイリンガル詩」には、日本語のシンタックスをもった英語詩行、英語の音韻に似た日本語詩行を特徴とするが、いまだ本格的な分析を受けていない。これらふたつのタイプの詩を対象として、翻訳実践と理論構築を図る。</p>					
【予想される成果と意義】					
<p>日英の翻訳実践と理論に関しては、Donald Richie、Cid Corman、Gary Snyder、Joanne Kyger などの先行的な仕事がある。こうした先行研究の知見を引き継ぎながら、本研究では現在のところ、日本文学を英語で翻訳する訳業では高い評価を得ている翻訳家 Jeffrey Angles の研究協力も得られることとなった。（Angles は伊藤比呂美の詩の優れた翻訳にたいして、The 2009 Japan-US Friendship Commission Prize を受賞している。）本研究にたいして彼の訳業から重要な知見を得られることが期待でき、英米文学・比較文学の専門家と緊密な連携を取ること、ひじょうに独創的な翻訳実践・翻訳理論研究を遂行できると考える。</p>					
【新規科研費獲得に向けた状況】					
<p>本共同研究者には日本語を母語とする研究者3名、英語を母語とする研究者5名による真に国際的な共同研究である。いずれのメンバーも研究を遂行する資質および学術経験を有しており、今後、文学研究科を基点として国際的な研究に展開させたいと考えている。その準備段階として本共同研究を位置づけ、将来的には大型科研の申請を検討している。</p>					

研究計画・方法

〔研究計画・方法を具体的かつ詳細に記述してください。また、研究経費（次ページの支出計画欄に記載）の必要性・妥当性を明確にしてください。〕

【研究計画・方法】

本共同研究では、①イギリス、②合衆国、③日本のモダニズム詩を対象とするため、それぞれの地域の詩に通暁した研究者と密接に連携した共同研究体制が要求される。①イギリスのモダニズム詩に関しては、代表者の山田と DeVore が担当する。②合衆国のモダニズム詩を担当するのは、片渕、高野、McKnight の三名である。片渕はアダプテーション・翻案理論の専門家でもあり、理論的な側面をカバーできる。また③日本のモダニズム詩については、この分野の第一人者 Angles を中心として、Knighton および Murakami-Smith の三人で密な学術連携を図る予定である。

①に関して具体的には、俳句、短歌を受容した F. S. Flint 以降のイマジズム英詩を山田が邦訳実験し、DeVore はイマジズムの影響が濃厚な 21 世紀の英米の詩を山田と共同で邦訳する。また、②の米文学翻訳の領域においては、片渕、高野、McKnight が、合衆国の現代小説やポピュラー文化のなかに取り込まれたモダニズム詩を対象として、文脈を考慮した効果的な翻訳方法について研究を進める。Angles、Knighton、Murakami-Smith が担当する③日本のモダニズム詩においても同様に、英語と日本語との言語距離を測定した上で、多田智満子および高橋睦郎の詩を英訳実践する。一方「バイリンガル詩」に関しては、DeVore が Nanao Sakaki の詩を中心に、その詩形の特徴と可能性について考察する。

平成 26 年 11 月上旬に、国内の共同研究者全員が大阪大学に集い、第一回目の研究会の機会を持つ。この会ではまず、研究代表者である山田が本共同研究でどこまでの成果を目指すかを発案する。その後、共同研究者全員にそれぞれ担当の研究対象について、研究進捗状況の報告をしてもらう。また平成 27 年 3 月上旬に開催予定の国際ワークショップに向けて、各共同研究者には各自の研究テーマについて簡単な予告をしてもらい、それに基づき討論を行う。

平成 27 年 3 月上旬に、合衆国からの招聘者を囲んでのワークショップを開催する。このワークショップが本共同研究でもっとも重要なイベントとなる。招聘研究者の Angles に基調講演を行ってもらった後、参加者全員で討論会を開催したい。引き続き、第一回の研究会で予告されていた各々のテーマについて、共同研究者全員による研究発表会を開催する。

平成 27 年 3 月下旬に、本共同研究を総括するための検討会を大阪大学にて開催し、研究成果を確認するとともに、成果をどのような媒体で公開するかを話し合いたい。さらに、大型の科研費申請に向けて、具体的な方法およびスケジュールについて検討する。

【研究経費の必要性】

以上の研究計画を遂行するためには、合衆国より Jeffrey Angles 氏を大阪大学に招聘することが必須となる。渡航費 350 千円と滞在費 50 千円が本研究経費の大部分を占める。また、国内の共同研究者を 2 度招聘するのに、旅費として 100 千円が必要となる。さらに本研究に共同で使用する参考図書を購入代金およびワークショップ開催の文具・コピー代として 50 千円を必要とする。

研究組織

氏名	年齢	所属機関・部局・職名	専門分野
山田 雄三		文学研究科・准教授	英文学
片渕 悦久		文学研究科・教授	米文学
DeVore, Trane		言語文化研究科・特任准教授	英語圏文学
Murakami-Smith, Andrew		言語文化研究科・准教授	比較文学
Angles, Jeffrey		Western Michigan University Department of World Languages and Literatures・Associate Professor	日本文学
高野 吾郎		佐賀大学・医学部・准教授	米文学
McKnight, Anne		白百合女子大学・英語英文学科・准教授 (8月着任予定)	比較文学
Knighton, Mary A.		Virginia Foundation for the Humanities (UVA)・Visiting Fellow	比較文学

※1行目に研究代表者（申請者）を記入してください。記入欄が足りない場合は追加してください。

※本学関係者については所属機関（「大阪大学」）は省略してください。

研究スケジュール

時期	内容
11月上旬	国内の共同研究者での研究会（大阪大学）
平成27年 3月上旬	海外の共同研究者を招いてのワークショップ（大阪大学）
平成27年 3月下旬	本共同研究の総括検討会（大阪大学）

※記入欄の数・幅が足りない場合は適宜追加・拡大してください。

研究経費の支出計画 (単位：千円)

設備備品費			千円
旅 費	国内出張	国内の共同研究者の招聘（1件）	千円
	海外出張		千円
	外国招聘	合衆国から共同研究者1名の招聘（1件）	千円
人 件 費	人件費		千円
	謝金		千円
事 業 推 進 費	消耗品	資料書籍購入費、文具・コピー代	千円
	印刷製本		千円
	通信		千円
	会議		千円
	招聘外国人滞在費	合衆国からの共同研究者1名の滞在（1件）	千円
その他			千円
合 計			千円

外部資金獲得・応募状況 (最近5年間のものまたは応募予定のもの)

外部資金の名称 と研究期間	研究課題名・ 研究代表者氏名	全研究期間の 総研究費 (単位：千円)	採 否	本申請との関連性
日本学術振興 会科学研究補 助金、基盤 (C)2014-2017	環境汚染問題への英語 圏モダニズムの文化的 介入法を分析する	4030	採 用	環境汚染問題とモダニズム政治 学との関係を分析することで、本 年度の共同研究のテーマとの連 関を図る。